

放射線科臨床研修プログラム

I 研修医

2 年目研修ローテーションの自由選択期間に於ける6ヶ月研修

1. 到達目標

放射線診断学の全般における基本能力を修得する。

- ① 各種画像診断検査の方法、手技を理解し、指導医の監督のもと各種検査を施行できるようにする。
- ② 報告書作成の為の基礎的知識を身につけ、実際に報告書を作成する。
- ③ 各種造影剤の適応、禁忌及びその副作用への対処法を理解する。
- ④ 核医学検査の基礎知識の修得と報告書作成。

放射線治療学に於ける基礎能力を修得する。

- ① 放射線物理学及び生物学の基礎知識の修得。
- ② 放射線治療の基本原則を修得し、対象疾患を理解する。
- ③ 臨床腫瘍学の学習。
- ④ 指導医と治療計画を作成する。

2. 研修内容

- ① 胸部単純写真及び腹部単純写真の読影と報告書作成。
- ② CT の撮影範囲、造影剤併用のスキャン計画及び注入条件を指示し、画像の読影と報告書作成。
- ③ MRI の装置、パルス系列を理解し、画像の読影と報告書作成。
- ④ 泌尿器系検査の理解と技術の修得、画像の読影と報告書作成。
- ⑤ 血管造影の基本技術を理解し、助手として検査を施行。カテーテルの基本手技の修得。
- ⑥ 上部消化管検査の技術修得と報告書作成。
- ⑦ その他、放射線科以外が施行するX 線検査についても出来る限り見学する。
- ⑧ 核医学検査の種類、適応及び所見の理解と報告書作成。
- ⑨ 放射線治療法の理解及び腫瘍放射線学の学習、治療計画の実施。

3. 評価

研修終了時に於いて研修評価を行う。評価は知識・技能・態度等について行い、評価表は研修管理委員会に提出する。

II レジデント

1. 到達目標

- (1) 各検査法の適応と手技に習熟し、又画像診断装置の基礎知識、取扱法を修得する。

- (2) 造影剤の薬理、生理を理解する。
- (3) 各種診断学(脳神経系、呼吸器系、心・大血管系、消化器系、泌尿生殖器系、骨・軟部系)の疾患の病理・病態を理解し病期分類、TNM 分類等に精通する。
- (4) 研修医の指導、報告書のチェックが行えるようにする。
- (5) 関連各科とのカンファレンスに参加し、適切な発言、討議が可能となる。

2. 研修内容

日本医学放射線学会の放射線科専門医・診断の修練要項に準じている。

(1) 検査

各種画像診断検査を一人で施行可能となる。

(2) 報告書作成

(3) 研究

関連学会・研究会へ参加し、学会発表、論文作成を行う。

3. 評価

- 1 年毎に研修評価を行う。評価は知識・技能・態度等について行い、評価表は研修管理委員会に提出する。